

◆授業設計のポイント◆

- ・ 学びの段階を知るためのルーブリックの作成
- ・ 対話のプロセスを振り返らせる工夫

国語科学習指導案

学 級 3年5組(男子20名・女子20名 計40名)

場 所 3年5組教室(3年校舎3階)

授業者 教 諭 矢 田 目 美 樹

1 単元名

朝読書を待ち遠しくさせるブックトークをしよう 教材名「状況に応じて話す力を養う」(三省堂3年)

2 単元における言語活動

ブックトークをする(関連:言語活動例 ア)

3 言語活動設定の理由

(1) 教材観

その場に応じた発表や発言をすることなど、人前で自分を表現することは、社会生活を送る中で必要な能力である。中学生の発達段階では相手を意識しながら話をするを通して、円滑な人間関係を形成するために、必要なコミュニケーション能力を育成したい。今回は授業の中でブックトークを行う。ブックトークとは設定した時間の中で本を複数の聞き手に紹介する活動である。ブックトークをする際は相手や状況に応じた内容や話し方、本の選定が必要になってくる。そのことを通して場の状況や相手の様子に応じて話したりする能力とともに、互いの立場や考えを尊重しながら人間関係を形成していく態度を養うことができると考える。

(2) 生徒の実態

本校では毎年弁論大会を行い、生徒は自分の考えをわかりやすく伝えるために話す速度や音量、間の取り方等を工夫して話すことを意識している。また、本学年の生徒は、中学二年生時に「パネルディスカッション」で異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめたり、相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合ったりする活動を行った。そこから課題をもって話したり、聞いたりすることを学んだ。そこで今回はブックトークを通して、場の状況や相手の様子に応じて話す力や、聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分のものの見方や考え方を深めたり、表現に生かしたりする力を育てたい。

(3) 言語活動の特性

今回のブックトークでは、対象を1年生とし、本を読んだ際の自分の思いや考えを、聞く人にしっかりと伝え、朝読書を楽しみにさせることを目的とする。ブックトークには様々な場面や相手が想定される。それゆえ、ブックトークをする相手や場の状況によって、トークの内容や話し方を考える力を必要とする。

以上のことから、ブックトークは場の状況や相手の様子に応じて話し、世代による言葉の違いを意識し、聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分のものの見方や考え方を深めるのに有効な言語活動といえる。

(4) 言語活動の工夫

本単元では実生活とつながる場面として終末に、実際に中学1年生にブックトークを行う場を設定する。このことは目的や相手意識を明確にさせるとともに、学習の意義を理解させ、学習への意欲を高める上で効

果的であると考え。導入では教師が行うブックトークを体験させて、課題を導き出し、よりよいブックトークにするための観点を明確にする。展開ではブックトークで話す内容を明確にするために、目的に応じて紹介する本を選ばせ、ブックトークの構成メモを作らせる。メモという形に留めることで場の状況に応じた柔軟な話し方を意識させたい。グループ内でブックトークの練習をする際には、聞き手としての中学1年生役と、全体のブックトークを観察する評価者の役割を与える。聞き手には、理解できた時や難しかった時の反応を意識的に行わせ、評価者には、聞き手の反応に対する話し手の工夫を評価させる。以上のような活動を行うことで相手に読書への興味を喚起させ、聞き手の反応や場の状況にも応じられるようなブックトークへ質を高めたい。

4 単元の目標

- (1) 場の状況に応じて話すことを意識しながら、ブックトークに積極的に取り組んでいる。(関心・意欲・態度)
- (2) 場の状況や相手に応じてブックトークを行うとともに、敬語を適切に使うことができる。(A イ)
- (3) 聞き取ったブックトークの内容や表現を評価して、自分の考え方を深めたり、表現に生かしたりすることができる。(A ウ)
- (4) 世代によることばの違いを意識し、敬語を適切に使うことができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(ア))

5 単元の指導計画(全5時間)

過程	活動のねらい	主な学習活動	時	指導上の留意点
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題意識をもたせる。 ・ 単元を貫く学習課題の解決に向けて考えを深めさせる。 	1 中学1年生に向けたブックトークのモデルを聞く。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 質の高いブックトークを行うために必要な観点が入っているモデルと、そうでないモデルを聞かせる。 ・ 各自で振り返り、その後グループ内で対話をさせ、出された意見を比較、分類し課題を整理させる。
		2 モデルのブックトークを振り返り、気付いたことや問題点について、グループ内で対話を行い、ルーブリックを作成する。		
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブックトークで話す内容を明確にさせる。 	3 目的をふまえて、中学校1年生にブックトークを行うことを想定しながら、紹介する本を選ぶ。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の読書の傾向や、本との出会いなどを振り返らせ、紹介する本を一冊選ばせる。
		4 紹介する本にまつわる事柄の項目を考える。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本の内容に関することと本との関わりに関すること、朝読書での思い出を挙げさせる。 ・ 中学校1年生にブックトークを行うことを想定し、4の内容を取捨選択したり、並べ替えたりして構成メモを作らせる。
		5 ブックトークの構成メモを作る。		
開	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブックトークの話し手、聞き手をしながら、お互いのブックトークをよりよいものに改善させる。 	6 グループでブックトークを行い、ブックトークについて対話を行う。	1 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聞き手には、中学1年生の役割を演じさせる。またブックトークを行う生徒と聞き手以外に、その様子を評価する評価者(第三者)の役割ももたせる。 ・ 相手と場の状況に応じた話し方、ブックトークを聞いての感想などについて対話をさせる。

終末	<ul style="list-style-type: none"> 前時のブックトークで出した意見をもとに、再度ブックトークをさせ、実生活等での活用を意識させる。 	<p>7 改善したブックトークを1年生に行う。</p> <p>8 聞き手の評価から学んだことを振り返りまとめる。</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> 3年生はブックトークの聞き手側にもなり、1年生と共に評価をさせる。 ループリックを使って自己評価を促す。
----	---	--	---	---

6 単元における評価規準

次に挙げる評価規準に従って重点的に指導する。

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> 状況に応じて話すことを意識しながら、ブックトークに積極的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 場の状況や相手に応じてブックトークを行うとともに、敬語を適切に使っている。 聞き取ったブックトークの内容や表現を評価して、自分の考え方を深めたり、表現に生かしたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 世代によることばの違いを意識し、敬語を適切に使うことができている。

7 到達目標問題

(問題) A「地域のお年寄り」と、B「もうすぐ中学校に入学する小学6年生」に向けて、2年生の時に学んだ「走れメロス」を使ってブックトークをすることになりました。それぞれのブックトークの出だしを考えて書きなさい。

(解答例A) 皆さん、中学生の時、どんな教科書で勉強をされていましたか。実は私たちの教科書には皆さんもきっとご存じのあの名作「走れメロス」が掲載されているのです… (省略)

(解答例B) 皆さん、いよいよ入学が迫ってきました。今どんな気持ちですか？きっと嬉しい気持ちと不安な気持ちでいっぱいだと思います。そして一番考えることは友達ができるかな？ということではないですか？… (省略)

8 本時の実際 (4 / 5)

(1) 題材 状況に応じて話す力を養う ブックトーク

(2) 目標

○ ブックトークをするための練習をし、対話を行いながら、目的に沿ったよりよいブックトークに改善することができる。

(3) 授業設計の工夫

ア 学びの段階を知るためのループリックによる指導の工夫…**研究の視点1**

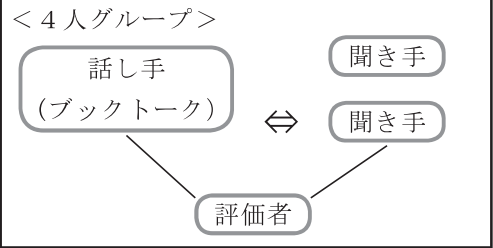
作成したループリックで、生徒個々の学びの段階の確認を行い、本時の目標を確認する。本時はブックトークの練習をする中で、状況や相手に応じて話をし、適切に敬語を使っているかということを確認する「つながり段階」である。そして本時の終末では、ブックトークの練習をし、その改善が図れたかという達成度を確認し、次時への意欲につなげていきたい。

イ 対話のプロセスを振り返らせる指導の工夫…**研究の視点2**

今回はブックトークをする生徒、そのブックトークを聞く生徒以外に、話し手、聞き手の様子を観察する評価者の役割を生徒にもたせる。そうすることで、話し手、聞き手が気づかなかった点を指摘することができ、目的に沿った対話を行うことができると考えた。

さらに「話合いの段階」を示し、話合いの内容を発表をする際は、「話合いの段階」も発表させ、対話の見取りを行っていきたい。

(3) 展 開

	主な学習活動	時間 形態	○指導上の留意点 ◎評価 ※授業設計の工夫について
導 入	1 前時までの学習を振り返る。 2 本時の学習課題と学習の流れを確認する。 【学習課題】 よりよいブックトークをするために必要なことは何だろうか。	2 一斉 3 一斉	○ 前時までの学習内容と全体の学習計画を想起させる。 ※ ルーブリックで学びの段階を確認させる。 研究の視点1 ○ 学習課題を提示するとともに、学習の流れを確認させる。 ① 観点を確認しブックトークを行う。 ② ブックトークを振り返る。 ③ よりよいブックトークに改善する。
展 開	3 ブックトークをする際の観点を確認する。 4 ブックトークを行い、観点を基に改善に向けた対話をする。  <4人グループ> 話し手 (ブックトーク) ↔ 聞き手 聞き手 評価者	3 一斉 20 グループ 9 一斉 10 個	○ ルーブリックでブックトークをする際の観点を確認させる。 ○ 場の状況や相手の様子に着目した対話が行えるように以下のような役割を設定する。 <聞き手> 中学1年生を演じ、興味をもった場合やそうでない場合、理解できなかった場合等、様々な状況を想定させ、目線や表情、相づち等の反応をする。 <評価者> ブックトークを行う生徒と、聞き手の様子を観察し、聞き手の反応に対する話し手の工夫を評価する。 ○ 複数の聞き手の反応の違いを捉えているグループの意見を取りあげることで、ブックトークには様々な状況が想定され、いくつかのパターンを用意することが必要なことを全体で共有させる。 ※ 「話し合いの段階」も発表させ対話への取り組みを振り返らせる。 研究の視点2 ○ 対話を基に構成メモに改善点を書き加えさせる。 ◎ 様々な状況を想定していくつかのパターンを用意しておくことができたか。
終 末	7 本時のまとめをし、次時の確認をする。	3 一斉	※ ルーブリックを基に達成度を確認させる。 研究の視点1 ○ 次時は、1年生にブックトークをすることを確認する。